

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 「知の総合化ノート」を活用した授業の実践
- ポジティブな行動支援の手法を生かした授業づくりの実践

西井川学校
「学力向上実行プラン」

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、
学力の向上を推進

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
---------	----

校長

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組み状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや計算練習などには、積極的に取り組んでおり、ある程度定着している。 ●問題や文章を読み取る力や書く力が不足している。 ●既習内容を活用した問題を解くことに課題が見られる。	・教科書の内容や問題文の意図、グラフ等が示す意味などの読み取りが正確にできる。 ・適切な言葉を知り、文章を書くときに使うことができる。 ・基礎的・基本的な学習内容を確実に習得し、発展的な問題を解くことができる。	・問題提起の部分や重要な部分などをアンダーラインや丸で囲ませ、学習内容を正確に読み取らせる。 ・授業中や日常の会話の中で語彙を増やす指導を行う。 ・学習ガイド等を活用し、活用問題や初読の問題に慣れさせる。 ・「はかせタイム(朝の活動の時間)」にタブレット端末等を活用し、基礎的・基本的な内容のドリル問題に取り組ませる。	・正しい読み取りのために必要な箇所を区切って読み取らせる。	・問題提起の部分や重要な部分などをアンダーラインや丸で囲ませ、学習内容を正確に読み取らせる取組により、個人差はあるが力がついてきている。 ・ペア活動で伝え合いをすることにより語彙への意識が高まった。 ・タブレット端末を活用したドリル学習は学習の個性化を実現し、基礎基本の定着を図ることができた。	・「デジタル知の総合化ノート」を活用することで、知識・技能の自らの課題を自ら意識化させ、自ら目標を立てることで、習得させる。 ・語彙については、対話型学習を授業に取り入れることで、さらに意識を高める。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○持っている力で一生懸命表現したり、解決しようとする意欲が感じられる。 ●表現力が十分ではなく、発表や説明が苦手な児童が多い。自分の考えを筋道を立てて記述したり話したりすることに課題がある。 ●学んだことを生活場面で生かしていない。	・学びをふりかえり、整理することができる。 ・学びをふりかえり、友達にわかりやすく伝えることができる。 ・学んだことを他教科や生活場面で活かすことができる。	・望ましい行動に注目し、できていることを認めたり、活躍する場を設定したりすることを通して、望ましい行動を増やしていく。 ・「知の総合化ノート」を活用することで、これまでに身につけた知識や技能を繋げ、活用できるようにする。 ・学びを他者にわかりやすく伝える機会を効果的に設定する。 ・ICT機器を効果的に活用する。	・家庭学習や、1日の振り返りの際、「2文60字以上」などの条件を設け書かせることを習慣とする。 ・「知の総合化ノート」を活用することで、学びをふりかえり、整理させる。	・条件を変えたり、テーマを設定したりしながら作文指導を行うことにより、目的意識や相手意識をもった表現ができるようになってきた。 ・「知の総合化ノート」の活用により、学びを振り返り、学びを成果物にまとめることで表現力が身についてきた。	・単元ごとに、「デジタル知の総合化ノート」を成果物として整理することで、自らの思考力をメタ認知的に捉え、アウトプットさせることで、表現力だけでなく、さらに思考力や判断力も育成する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○家庭学習の提出は多くの児童ができ、与えられた課題には、きちんと取り組む。 ●問題を進んで追求していく力が弱く、最後まで続けて努力することに課題がある。	・自分たちで学習規律を考え、それを協力して実践することができる。 ・家庭学習のてびきを活用し、意欲的に自主学習に継続して取り組むことができる。 ・進んで読書ができる。	・自主学習への働きかけとして、一人一人にあったアドバイスをを行い、主体性につなげる。 ・週1回の読書の日、月1回のNoメディアデーやブックトークの日を設定し、読書に親しませる。		・自主学習については、受動的であり能動的な学習にはなっていない。 ・読書に親しませる活動を定期的に行うことにより、読書量が増えた。	・「デジタル知の総合化ノート」を振り返る段階で、自分の課題を認識し、主体的に家庭学習に取り組む態度を育成する。さらにもっと知りたいことや学びたいことを考えさせることで、主体的に学習に取り組む態度を育成する。

令和5年度 学力向上ロードマップ

